安の花田植の伝承事業

１、安の大花田植の由来

昭和3年（1928年）1月に発行された「民俗芸術」創刊号に、広島県安佐郡の花田植として、安の大花田植のことが掲載されている。

昔、大町五軒家に、喜左衛門という豪農がいた。湿田9町8反を持っていて、田植の時には、近所は勿論近村からも、多数の応援を得て田植をするようになった。そして、そのうち、応援に行く者は、牛を飾り、早乙女も衣装を着飾って田植をするようになった。これが、「安の大花田植」の始まりである。

代表的な花田植としては、古くは、大名上覧の大花田植をはじめとして、安政・万延年間の花田植、明治4年（1871年）の花田植、日清戦争凱旋祝賀、明治39年（1906）の高木翁還暦祝の花田植があります。

2、昭和になっての花田植

安の大花田植は、大正9年（1920年）を最後に中断されていたが、安古市町発足時の昭和30年（1955年）に、20数年ぶりに復活した。昭和30年(1955)以降の大花田植の場所、牛、早乙女等は次のとおりである。

昭和３０年(1955) ７月１０日　安郵便局の下　　牛２５頭　　早乙女５０人外
昭和３１年(1956) ７月　８日　相田　吉田家の所　牛１９頭　早乙女６５人　采振り６０人外
昭和３２年(1957) ７月　８日　上安南部山橋の所　牛２２頭　早乙女４０人
昭和３３年(1958) ７月１３日　安河原の沖本の所　牛２１頭早乙女６０人外
同　　年　　８月２３日　広島市民球場で郷土芸能祭に出場　早乙女６０人　　采振り４４人
太鼓振り２２　音頭出し２２人(牛は参加していない)
昭和３４年(1959) ７月１２日　長楽寺観音田　牛１４頭　　早乙女６５人外

３、安の花田植唄

道行き

1、　見物様には少し道を(サーハー頼むよ)
　　アーヨーイ　少し道を(サーハー頼むよ)
2、　ここは高岸　降ろしてたもれ(サーハー殿子よ)
　　アーヨイ　降ろしてたもれ(サーハー殿子よ)
3、　今日の田植えは　ごまんさ長者エー
　　(ノリャーなおようね)
　　アーヨイ　ごまんさ長者
　　(ソリャハァ長者ソーリョなおよね)
4、　田植　七夕　三拝様を(ノーリャ　おろした)
　　アーヨオイ　三拝様オー(ソリャハ　様ホーリョ　おろした)

勇み田

1、　植えてみせましょ　見物様の(ごちそうに)
　　サーヨイ　見物様の(ホイサイ　ソラサイ　サーハーごちそうに)
2、　勇ごえが　音戸の瀬戸に(聞こえた)
　　アーヨーイトコセート(ホイサイ　ソラサイ　サーハー　植えようや)
3、　ここは道端　絵に書くほどに(サーハー植えようや)
　　アーヨーイ　絵に書くほどに(ホイサイ　ソラサイ　サーハー　植えようや)
4、　此の田植えたら　此の田に米が(サーハー千石)
　　アーヨイ此の田に米が(ホイサイ　ソラサイ　サーハー千石)
5、　昼間食えよと　招くのは門の(サーハー木戸から)
　　アーヨイ　招くは門の(ホイサイ　ソラサイ　サーハー木戸から)
6、　御酒よばれて　御目の前が(サーハーちらつく)
　　アーヨーイ　御目の前が(ホイサイ　ソササイ　サーハー　ちらつく)
7、　あれに見えるは　明星の星か(サーハー　お月か)
　　アーヨイ　明星の星か(ホイサイ　ソラサイ　サーハー　お月か)
8、　誰もそなたも　ご苦労様よ(サーハー　今日)
　　アーヨイ　ご苦労様よ(ホイサイ　ソラサイ　サーハー　今日)

別れ

1、　七ツ過ぎれば女郎やにすだれを(ノーリャー　おろした)
　　アーヨイ　女郎屋にすだれを
　　(ソーリャ　すだれをヨー　おろした)
2、　すだれおろして　御田の客を(ノーリャ　招いた)
　　アーヨイ　御田の客を(ソリャハー　客をヨー　招いた)
3、　名残惜しくば　名残のサ袖を(ノーリャ　振りおけ)
　　アーヨイ　名残の袖を(ソリャハー　袖をヨー　振りおけ)

ざいふりのおどり

1、　きょうも　てるてる　てるひにゃ　かーさーを
　　つけましょ
　　エイ　ヨー　オイ　サイ　ソラサイ
　　サーハー　いさーんだ　エイ　ヨー
　　オイ　サイ　ソラ　サイ
2、　今日は　田植よ　たんぼじゃ空を
　　付けましょ　付けましょ
3、　今日の　梅雨空　ふる日にゃ　みの笠
　　付けましょ　付けましょ